

救命法

1 意識の確認

声をかけ、肩を軽くたたき、確認する。反応がなかったり、鈍かったりする場合は、協力者を求め、119番通報とAEDの手配を依頼して、気道確保を行う。



2 呼吸の確認

(見る、聴く、感じる)

- ① 気道を確認したまま、耳を傷病者の口元に近づけ、視線を傷病者の胸のほうへ向ける。子どもの首は柔らかいので、後方に傾け過ぎないようにする。

② 胸のあたりが上下に

動いているか見て、呼吸音を5～10秒以内で確かめる。呼吸していることが確認できた場合は、気道確保を行い、救急車の到着を待つ。確認できない場合は、速やかに胸骨圧迫を行う。



4 骨折

- ① 全身及び患部を安静にする。
- ② 患部を固定する。(骨折した手足の末梢を観察できるように、手袋や靴、靴下などを予め脱がせておく。)
- ③ 骨折部が屈曲している場合、鋭利な骨折端が神経、血管などを傷つける恐れがあるので、そのままの状態で固定する。
- ④ 固定後は、傷病者の最も楽な体位にする。腫れを防ぐために、患部を高くして冷やす。
- ⑤ 全身を毛布などで包み、保温する。
- ⑥ 医療機関に搬送する。

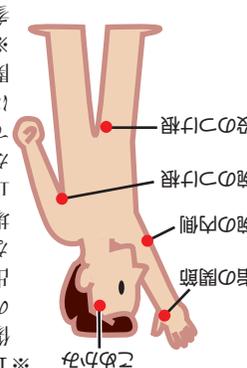
- ① 全身及び患部を安静にする。
- ② 患部を固定する。(骨折した手足の末梢を観察できるように、手袋や靴、靴下などを予め脱がせておく。)
- ③ 骨折部が屈曲している場合、鋭利な骨折端が神経、血管などを傷つける恐れがあるので、そのままの状態で固定する。
- ④ 固定後は、傷病者の最も楽な体位にする。腫れを防ぐために、患部を高くして冷やす。
- ⑤ 全身を毛布などで包み、保温する。
- ⑥ 医療機関に搬送する。

5 熱中症

- ① 風通しが良い日陰や冷房の効いた所に運び、衣類をゆるめて楽にする。
- ② 本人が楽な体位にする。顔面が蒼白で脈が弱いときには、足を高くした体位にする。
- ③ 意識があり、吐き気や嘔吐などがなければ、水分補給をさせる。スポーツ飲料か、薄い食塩水などを飲ませる。
- ④ 皮膚の温度が高いときは、水で全身の皮膚をぬらし、あおいで風を送り体温を下げる。
- ⑤ 皮膚が冷たかったり震えがあったりするとき、乾いたタオルなどで皮膚をマッサージする。
- ⑥ 熱痙攣や熱疲労の症状がおさまらないときは、急いで医療機関に搬送する。
- ⑦ 意識がないときは、救命法の手順(P7～)により手当を行う。

3 きず

- (1) すり傷
 - ① 水道水などで土や泥をよく洗い流す。
 - ② 傷をオキソドールなどの消毒薬を使い消毒する。消毒薬を傷口にたらし、出してきた泡を滅菌ガーゼでそっと押さえるようにふきとる。
 - ③ 滅菌ガーゼを患部に当て、ガーゼの上からばんそうこうをはる。必要に応じて包帯を巻く。
- (2) 切り傷(傷が深い場合)
 - ① 滅菌ガーゼを傷口に当て強く押さえ止血。
 - ② 傷口を強く押さえたまま、傷口のあるところを心臓よりも高い位置に固定する。
 - ③ 出血がひどい時は止血点※も圧迫する。
 - ④ ガーゼの上から包帯を巻いて医療機関に搬送する。



傷口からの出血には、毛細血管からの出血、静脈からの出血、動脈からの出血の3種類がある。そのうち、深刻なのは動脈からの出血である。この場合は、傷口を直接圧迫するほかに、止血点(傷口よりも心臓に近く、外側から圧迫できる動脈部位)を圧迫しから止血する必要がある。止血と同時に救急車を呼び、一刻も早く医療機関で手当する。

※止血点の場所は左のイラストを参照

応急手当

- 応急手当を正しく速やかに行うことで、救命効果を向上させ傷病治療の経過がよくなる。
- 子どもに薬を飲ませたりすることは避けること。
- 軽症だと思っても、帰宅後変化が現れてくる場合もあるので、処置をした後は、直接、または連絡カード等を使って保護者に連絡しておくこと。

- ① 鼻血
 - ① 座って軽く下を向き、骨折がない場合は鼻を強くつまむ。
 - ② 顔から鼻の部分をやや、静かに座らせる。
 - ③ 出血が止まっても、鼻をかんではいけない。
 - ※このような手当てで止まらない場合は、深い部分からの出血を考慮して、医療機関に搬送する。
- ② ハチに刺された
 - ① 針が残っているものは、毛抜きで抜くか、横に払って落とす。
 - ② 冷湿布をして医師の診察を受ける。
 - ③ アナフィラキシーショックを起こすことがあるので、30分は経過観察をする。

千葉県 放課後子ども教室 安全管理マニュアル

ハンドブック



千葉県教育委員会

—— きりとり - - - - 山折 - - - - 谷折

目次

このような症状がみられたら、要注意！ 2 ページ

応急手当 3 ページ

 応急手当方法 3 ページ

 1 鼻 血 3 ページ

 2 ハチに刺された 3 ページ

 3 き ず 4 ページ

 4 骨 折 5 ページ

 5 熱 中 症 6 ページ

救命法 7 ページ

 救命法のフロー図 10 ページ

各種対応のポイント 11 ページ

 1 けが・急病の発生時 11 ページ

 2 不審者侵入時 12 ページ

 3 火災発生時 13 ページ

 4 教室外の事件・事故発生時 13 ページ

 5 地震・津波発生時 14 ページ

備忘一覧 15 ページ

このような症状がみられたら、要注意!

| 子どもの訴え | 主な症状 | 考えられる病名 | 主な対応 |
|--------------|---------------------|----------------------|----------------------------|
| 熱っぽい | 鼻水、咳、のど痛 | リンパ節腫脹・発疹を伴う | 風疹 → ② |
| | | 眼やに・結膜炎・発疹を伴う | 麻疹 → ② |
| | | 悪寒・発熱・関節痛・倦怠感を伴う | インフルエンザ → ② |
| 頭が痛い | 鼻水、咳、のど痛、ズキンズキンする頭痛 | 発熱・発汗を伴う | 熱中症 → ① |
| | | 片側のズキンズキンする頭痛 | 脳炎 → ①② |
| | | 上気道炎、副鼻腔炎 | → ②③ |
| 気分が悪い | 呼吸困難、血圧低下、頻脈、意識障害 | しめつけられるような頭痛・鈍痛 | 片頭痛 → ②③ |
| | | 高熱・激しい頭痛・めまいを伴う | 緊張型頭痛(視力障害・睡眠不足・精神的苦痛) → ③ |
| | | 食物アレルギー既往・皮膚のかゆみ・蕁麻疹 | 食物摂取後のアレルギーショック → ① |
| おなかが痛い | 腹痛・下痢・嘔吐・血便を伴う | 食物摂取後のアレルギーショック | 食中毒 → ①② |
| | | 体に反復性の内出血・打った後がある | 急性虫垂炎 → ①② |
| | | 左側腹部から下腹部の痛み | 虐待・いじめ → ③ |
| | | 月経に伴った下腹部痛・腰痛 | 便秘 → ②③ |
| | | 臍部に痛み・圧痛なし | 月経痛 → ③ |
| 下腹部に痛み・圧痛・発熱 | 心因性腹痛 → ③ | | |

① 119番通報をし、救急車で搬送

② 医療機関へ搬送・家庭に連絡

③ 応急処置を施して安静し、様子を見る